

平成 8 年 5 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

東京都史跡『安楽寺境域』における修理工事終了迫る

青梅市成木一丁目 5 8 3 番地にある、真言宗成木山愛染安楽寺の修理工事がいよいよ本年度で終了となり、修復後の姿を一般に公開する時が近づいて参りました。

この安楽寺は、和銅年間（708～715）に、行基が開創したと伝え、また、天慶年間（938～947）には平将門により、法華経が奉納されたともいわれている寺で、源頼朝、足利尊氏、北条氏照、北条氏政等とのかかわりを示す資料も残されています。

文化財としては、東京都の指定物件として、大正15年4月に指定された都天然記念物「成木安楽寺の大スギ」、昭和48年に都有形文化財に指定された安楽寺本堂及び玄関、そして、昭和53年には、「安楽寺境域」として都史跡に指定され、現在に至っています。また、青梅市の指定物件としては、「両界曼荼羅」「不動明王図」等の市有形文化財も保管されて、多くの歴史を伝える寺としてその存在は重要なものとなっています。

今回の工事は、平成3年11月から平成8年度末まで、『東京都指定史跡安楽寺軍荼利明玉堂等修理工事』の件名で行われているもので、修理物件は、軍荼利（ぐんだり）明玉堂（3年度）物置（5年度）、長屋門（6年度）、鐘楼堂（7年度）、外扉（7年度）、表門（8年度）等、それぞれの着手年度を異ならせて施工しているものです。

それではここで、修理前はどのような状況になっていたのかを少し紹介してみましょう。

建物としては、各部分に虫食いや亀裂、腐食、欠損等が多く、また、穴空き等がある中古材での応急的な工事がされたままとなっていたこと。屋根全域に草が生え、トラ葺と呼ばれる本来の造作が茅の腐食流出により失われていたり、杉皮の部分が堆肥状態になっていたこと。土台部分は、基壇内部の土砂が流出し、ひどい所では、コンクリートを流し込んだだけの応急措置をされたままとなっていたことなどが上げられます。

このような状況に対し、長屋門の修理では、礎石に接する柱の立ち上り部分を、檜を用いて合欠き継ぎによりつなぎ合わせたり、活かせる貫や板については旧来のままのものを使っています。屋根は、瓦葺きをすべて茅葺きにかえ、途中には16層の杉皮が挟まれています。鐘楼堂についても同様に、屋根を茅葺きにし、途中15層ほどの杉皮が挟まれています。柱については、旧来からの檜柱の、礎石に接する部分を同種の材で継ぎ、朱塗りが施されています。物置については、公の用途は不明でしたが、明治期には便所として、昭和期には家畜小屋として、後に養蚕小屋、戦中は学童疎開の炊事場にと、使用されたようです。修復された現在では、西端の一部分が便所として作られており、扉は無く、板で作られた便器が備えられているのみで

す。地面には、陶器製の便つぼが埋められていますが、実際には使用されていません。この建物の柱も、やはり土台近辺の部分は新しく継ぎ合わせ、板等も活かせるものは旧来のままのものを使っています。裏側から見ると、垂木部分はすべて藁縄によって縛ってあります。屋根は茅葺きとなっており、途中16層ほどの杉皮が折り込まれているところは、長屋門等と同じ構造になっています。そして、工事開始から4年半ほど経過した現在、足場を組んで修復が為されているところは、「表門」となっています。この表門については、檜が扉や柱にずいぶん使われており、他の建造物と比べ、杉は少なかったようです。

現在では、ほとんどの修理が完了した安楽寺の建物ですが、他にもまだまだ気付かない所に、多くの苦勞をかけて作った部分が沢山有ることと思います。後世に残すという目的も含め、時代考証や多くの技術を活かして修復された素晴らしいものですので、すべての工事が完了した時には是非これらの建物をご覧いただき、青梅市にはこのような素晴らしいものが有ることを味わってみてください。

(文責 鈴木)

◎ 青梅市教育委員会発行図書のご案内

・青梅市の民俗	2, 200円	・青梅市の石仏	2, 000円
・青梅市の民家	4, 000円	・青梅市の板碑	4, 000円
・青梅市の自然Ⅰ	5, 000円	・青梅市の自然Ⅱ	5, 000円
・青梅市の町家	2, 600円	・青梅市の社寺建築	5, 000円
・人生儀礼緊急調査報告書	2, 500円	・資料青梅市の中世城館跡	3, 000円
・青梅市仏像彫刻調査概報Ⅰ	500円	・青梅市仏像彫刻調査概報Ⅱ	500円
・東京都青梅市 寺改戸遺跡	3, 000円	・東京都青梅市 丸山遺跡Ⅰ～Ⅳ次調査概要	500円
・東京都青梅市 城の腰遺跡・霞台遺跡(第8次)			3, 000円
・青梅市史史料集 第35～36号	宗門人別帳(三～四)		各1, 000円
・ 〃 第37～39号	御廻状留帳(五～七)		各1, 000円
・ 〃 第40号	御殿女中吉野みちの手紙		1, 000円
・ 〃 第41号	検地帳(一)		1, 000円
・ 〃 第42号	庭場について		1, 000円
・ 〃 第43号	稿本 三田村史		1, 000円
・ 〃 第44号	青梅郷土詩		1, 000円
・ 〃 第45号	調布村誌資料		1, 200円
・青梅歴史物語	700円	・青梅を歩く本	1, 000円
・写真集—青梅—	350円	・イラストマップ青梅の文化財	300円
・文化財地図「青梅を歩く」	500円	・郷土博物館絵ハガキ	200円
・写真展 「昭和10年代の青梅」展示図録			500円
・特別展 「商いの宣伝」展示図録			700円
・青梅案内双六(復刻)	200円	・増補改定 青梅市史	13, 000円

いずれも青梅市郷土博物館、教育センター社会教育課などで購入することができます。